

令和5年 第3回 大仙市議会定例会

市 政 報 告

令和5年8月18日

大仙市長 老 松 博 行

令和5年第3回大仙市議会定例会にあたり、諸般の状況について申し上げます。

はじめに、大雨による災害についてであります。

東北北部に停滞した活発な梅雨前線の影響により、県内では7月14日から16日にかけて断続的に激しい雨が降り続き、複数の地点で24時間雨量が300ミリを超えたほか、多くの観測所で観測史上最大の雨量を記録しており、本市においても協和ダム観測所で356ミリの24時間雨量を記録するなど、非常に激しい雨に見舞われております。

この大雨により、県内では1名の尊い命が失われ、4名の方が負傷されたほか、いまだ全容が明らかとなっていないものの、住家や農地などに甚大な被害をもたらしております。

亡くなられた方のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災されました皆様に心からお見舞いを申し上げます。

市では、大雨に関する気象情報を受け、14日夕方に災害警戒対策室を設置し、河川の増水や土砂災害への警戒など早期の対応に当たっております。翌15日早朝には、雨量のさらなる増加に伴い災害警戒対策部に改組し、内水排水や交通規制などの対応を行うとともに、災害のおそれが高まったことを受け、同日の午前10時に災害対策本部に改組し、自主避難者用を含め21箇所に避難所を開設したほか、土砂災害のおそ

れがある西仙北及び協和地域の5地区561世帯に加え、河川の増水による水害被害のおそれがある大曲、神岡、中仙、協和及び南外地域の25地区1,458世帯に避難指示を発令するなど、市民の皆様の命を最優先に早め早めの対応に努めたところであります。また、常設ポンプ14箇所22基、可搬式ポンプ20箇所46基に加え、国や県と連携し、8箇所に延べ17台の排水ポンプ車を配備して内水対策にあたるなど、水害被害を最小限に防ぐため、今できうる最大限の対応を行っております。

しかしながら、断続的に降り続いた豪雨により西仙北地域で13棟、神岡、協和及び南外地域で各1棟、あわせて16棟の住家と7事業所に床上浸水の被害が生じたほか、大曲、神岡、西仙北、協和、南外及び太田地域において、35棟の住家と3事業所に床下浸水被害が生じております。さらに、市内全域において通行止めなどの交通障害や土砂崩れによる道路被害が確認されているほか、水稲547.9ヘクタール、大豆151.2ヘクタール、枝豆等の露地園芸作物12.2ヘクタールに浸水や冠水の被害が生じており、農地・農業用施設への被害とあわせ、被害総額は約2億8,300万円に上っております。また、林地・林業施設につきましても、協和地域船岡地区の七袋線^{ななふくろ}及び滝ノ沢線をはじめ、複数の林道において路肩決壊などの被害が生じております。

これを受け、市では、被害の全容が明らかになるまで待つことなく、

できる限り早期の生活再建と事業再開を図るため、住宅への浸水被害等に遭われた皆様に災害見舞金をお渡しするとともに、住宅等の応急的な復旧のほか、被害の詳細が判明した農地や農業用施設、道路や河川などの公共土木施設の復旧に係る補正予算を8月4日付けで専決処分させていただくなど、迅速な対応に努めているところであります。また、被害状況の調査についても継続的に進めてきたところであり、復旧事業をさらに加速するため、追加提案として今次定例会に関連する予算の補正をお願いしたいと考えております。引き続き一日も早い復旧に全力で取り組むとともに、全国的に想定を大幅に上回る豪雨災害が頻発している近年の状況を踏まえ、災害対応力のさらなる強化を図りつつ、災害を未然に防ぐための抜本的な対策も検討してまいります。

次に、こども・子育て支援の充実についてであります。

こども・子育て支援につきましては、「第2期大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、重点施策の一つに「結婚・出産の希望をかなえ、子育てしやすい環境づくり」を掲げ、特に力を入れてきた分野であり、子育て世帯に寄り添った切れ目のない支援体系を組織横断的に検討する「子育て支援制度等検討会議」のもと、結婚や出産、子育てに喜びと安心を感じられる充実した環境の実現に向け、取組を進めているところであります。

こうした中、今年4月には「こども家庭庁」が発足し、あわせて「こども基本法」が施行されるとともに、6月にはこども・子育て政策の指針となる「こども未来戦略方針」が示され、こどもまんなか社会の実現に向けた各種取組がスタートしております。こうした取組の一環として「こどもまんなか応援プロジェクト」が展開されているところであり、本市においても、市の「こども条例」の理念や、子ども・子育て施策の根底にある考え方に通ずる「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同し、この場をお借りいたしまして、本日、「こどもまんなか応援サポーター」に就任することを宣言いたします。

これまでも、そしてこれからも、市を挙げてこどもや子育てを応援するという姿勢に変わりはありませんが、この度の宣言を機に、子育て世帯のニーズが高い「仕事と子育ての両立」をさらに後押しするため、多子世帯を対象に実施している「子育てファミリー支援事業」に家事代行利用を追加するとともに、市が独自で実施している保育料無償化制度の対象年齢を拡大し、令和6年度を目途に、大仙市のすべてのこどもの保育料無償化に向けて準備を進めてまいります。その受け皿となる保育施設につきましては、社会福祉法人大曲保育会と連携して整備を進めてきた「大曲北保育園」の移転改築事業が8月4日に完了しており、充実した保育サービスが提供できるよう、10月の開園に向けて準備を進めてまいります。

今後も、こどもや子育て世帯の目線を各種施策に取り入れながら、市民や企業の皆様とともに若い世代が子育てに希望を持ち、安心して子育てができる「子育てに寄り添い、子育てに優しいまち」を目指してまいります。

次に、主な部局ごとに諸般の報告を申し上げます。

はじめに、企画部関係についてであります。

「若者チャレンジ応援プロジェクト」につきましては、地域全体で若者の挑戦を応援する機運を高めるとともに、チャレンジに一步踏み出そうとする若者を後押しすることを目的に、昨年度に引き続き「市民向けセミナー」を開催することとしております。今年度は、若者をはじめ、より多くの皆様にご参加いただけるよう、企画内容の充実を図るため、5月から、だいせんL a b oに秋田大学地域連携ゼミの学生2名を受け入れており、現在、市内で起業した方へのインタビューやSNS等を活用した情報発信など、11月の開催に向けて精力的に活動いただいております。また、若者がチャレンジできる環境づくりのさらなる推進に向け、地域おこし協力隊の募集を行ったところであり、10月1日からの任用に向けて準備を進めております。学生ならではの行動力や発信力と、協力隊のスキルや経験を、チャレンジする「人づくり」、そしてその挑戦を地域全体で応援する「土壌づくり」につなげてまいります。

次に、市民部関係についてであります。

地球温暖化防止対策につきましては、「大仙市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の策定と並行し、先の市議会定例会において議決いただいた一般住宅への太陽光発電設備等の導入支援や、県内初となるEV・PHEVの購入助成を7月10日に開始しております。8月1日には、エネチェンジ株式会社とゼロカーボンシティの実現に向けた連携協定を締結したところであり、スポーツ施設や道の駅をはじめとした17の公共施設を対象に、10月頃から順次、次世代自動車の普及に向け、その基盤となるEV充電器の設置を進めてまいります。引き続き前倒しが可能なものについてはスピード感をもって実行に移しながら、脱炭素社会の実現に向けた取組を着実に進めてまいります。

次に、健康福祉部関係についてであります。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、開催を見合わせていた敬老会につきましては、感染症法上の分類が引き下げられたことを受け、より多くの方が気軽に参加いただけるよう、町内会など身近な単位での開催を支援する方式に見直しを図った上で実施することとしており、今次定例会に関連する予算の補正をお願いしております。

新型コロナワクチンの追加接種につきましては、生後6か月以上のすべての方を対象に9月20日に開始する予定としており、希望する

市民の皆様が身近な地域で接種できるよう、関係機関と連携しながら準備を進めてまいります。

「健幸まちづくりプロジェクト」につきましては、新たに1事業所から測定機器を導入していただいているほか、「健幸ポイント事業」の一環として、抽選で300名の方に地域特産品をお贈りしております。こうした取組により、8月15日現在、2万5千826人、370事業所の皆様から参加をいただいております、引き続きプロジェクトへの参加拡大を図りながら、健幸寿命の延伸に向けた継続的な健康づくりを促進してまいります。

次に、農林部関係についてであります。

スマート農業の推進につきましては、農研機構東北農業研究センターやクボタグループとの連携により、GPS衛星と補正情報配信システムを活用した高精度自動操舵付きトラクタによる水稻無コーティング種子の直は実証栽培に取り組んでいるほか、県や県立大学と連携し、農業用ドローンを活用した水稻直は栽培の実証を進めており、8月7日に開催した現地検討会において順調な生育を確認しております。また、スマート農業機械のさらなる普及を促進するため、県事業を活用し、自動操舵システムなどの導入を積極的に進める事業者を支援することとしており、今次定例会に関連する予算の補正をお願いしております。

畜産振興につきましては、大曲農業高等学校が、4年後に北海道で開催される「第13回全国和牛能力共進会」の高校等を対象とする特別区への出品を目指しており、7月28日にプロジェクトチームを発足しております。同校の取組は、本県畜産業の振興や担い手確保に大いに寄与するものであり、県やJA、畜産関係団体、地域の若手畜産農家などと連携を図りながら、実現に向けてその挑戦を支援してまいります。

公有林整備事業につきましては、先の議員全員協議会において説明いたしましたとおり、市有林の適正な施業計画を検討するため、その基礎となる資源量の調査を実施することとしており、今次定例会に関連する予算の補正をお願いしております。

次に、経済産業部関係についてであります。

雇用・就業対策につきましては、7月20日、グランドパレス川端を会場に令和5年度「仙北地域求人説明会」が開催されており、ハローワーク大曲と角館管内の企業42社が出展し、令和6年3月卒業予定の高校3年生85人が参加しております。管内の就職希望者200人のうち県内就職希望者は149人で、県内就職希望率は74.5%となっており、昨年に比べ微減しているものの、依然として高水準を維持しております。今後も関係機関と連携を図りながら、地元就職を希望する若者へのきめ細やかな支援を通じ、定着を促進してまいります。

大曲企業団地における第2期造成事業につきましては、用地買収の完了に伴い造成工事の落札者を決定したところであり、早期に立地交渉に臨める体制を整えるため、今次定例会に工事請負契約の締結に係る単行案を上程しており、本会議初日での議決をお願いしております。社会経済活動の正常化が進む中で景気の緩やかな持ち直しが続き、企業の設備投資に対する意欲が強まっているこの機を捉え、引き続き積極的なトップセールスにより投資の拡大と企業の誘致に努めてまいります。

次に、観光文化スポーツ部関係についてであります。

JR大曲駅に併設する大仙市観光情報センター1階のふれあい広場につきましては、改修工事が完了し、7月23日に供用を開始しております。県南の玄関口として、快適性や利便性はもとより、大曲技術専門校の生徒に製作していただいた「HANABIベンチ」を設置するなど、観光拠点としての機能向上も図られており、市民をはじめ多くの皆様に利用され、親しまれる施設となるよう管理してまいります。

ふれあいスポーツランド・ソラーレにつきましては、7月23日、WBC日本代表「侍ジャパン」の監督としてチームを優勝に導いた栗山英樹氏をお迎えし、オープニングフェスティバルを開催しております。仙北ふれあい文化センターで行われたトークショーでは、来場した約600人の皆様が、熱戦の舞台裏や選手とのエピソードに耳を傾けた

ほか、スポーツフェスティバルでは、野球を通じて子どもたちと交流を深めていただいております。このソラーレに込められた願いのように、健康の増進やスポーツの振興、スポーツツーリズムの拠点として、市民をはじめ、多くの皆様が光輝くことができる本市を代表するスポーツ施設となるよう、運営にあたってまいります。

次に、建設部関係についてであります。

「雄物川改修整備促進期成同盟会」、「国道13号大曲・秋田間整備促進期成同盟会」並びに「高規格道路本荘大曲道路整備促進期成同盟会」につきましては、近隣自治体の同盟会とともに、6月19日から7月27日までの間、国土交通省や財務省、秋田県選出国會議員、秋田県などに対し、集中的に要望活動を行っております。今後も、道路・河川双方の着実な課題改善に向け、積極的に要望活動を展開してまいります。

次に、教育委員会事務局関係についてであります。

「大仙ふるさと博士育成」事業につきましては、夏休み期間を利用した特別企画として、市内の4企業と2施設のご協力のもと、「ふるさと農業体験DAY」と「ふるさと企業見学DAY」を実施しており、両企画とも募集定員を上回る申込みをいただいております。ふるさとの魅力に触れるこうした機会は、本市の未来を拓く人材の育成や、郷土愛

を育むことにつながることから、引き続き様々な機会を創出してまいりたいと考えております。

「市民が主役の地域づくり講座」として昨年度から開催している「大仙アカデミー」につきましては、7月29日、大曲市民会館大ホールを会場に、約300人の市民の皆様のご来場のもと、開催しております。3回目となる今回の講座では、かつて「スーパー公務員」と呼ばれた方のお一人で、日本地域創生学会の木村俊昭会長を講師にお迎えし、「『ないものねだり』から『あるもの探し』のまちづくり」と題して、ご自身の経験や事例を交えながら、「ひと育て」や「まち育て」について貴重な講演をいただいております。

最後に、財政状況についてご報告申し上げます。

令和4年度決算につきましては、市税収入が当初の見込みを上回ったことに加え、地方消費税交付金の増加などにより、普通会計における実質収支は、合併後最大となった令和3年度決算に次ぐ21億6,390万4千円の黒字となっております。実質単年度収支につきましても、財政調整基金の取り崩し額を超える基金の積み増しを図ったことなどにより、5年連続の黒字決算となる3億8,162万2千円の黒字となっております。

国民健康保険事業特別会計をはじめとする各特別会計の決算についま

しては、全ての会計において実質収支がゼロまたは黒字となっており、また、市立大曲病院事業会計、上水道事業会計、簡易水道事業会計及び下水道事業会計の企業会計の決算における収益的収支はいずれも黒字となっております。

主な財政指標のうち、実質公債費比率につきましては、一般会計における公債費が償還のピークを迎えたことに加え、普通交付税や臨時財政対策債の減少により標準財政規模が縮小したことなどから、前年度より0.4ポイント上昇し、11.0パーセントとなっております。

また、将来負担比率は、全会計の市債残高や一部事務組合の償還負担額が減少したことに加え、財政調整基金をはじめとする各基金の積み増しを図ったことなどにより、前年度より8.1ポイント改善し、85.7パーセントとなっております。

今後の財政見通しにつきましては、景気の緩やかな持ち直しや賃金の上昇トレンドなどの明るい材料に加え、新しい資本主義の実現に向けた各種取組の進展により、経済の持続的な成長が期待される一方で、社会保障をはじめとした義務的経費の増加や待ったなしの少子化対策、インフラの更新、学校施設の再編をはじめとした公共施設の統廃合などによる歳出の増大が見込まれており、今後も厳しい状況が続くものと考えております。加えて、今般のコロナ禍のような未知なるウイルスの発生や急激な物価上昇、頻発化・激甚化する災害などの有事に迅速に対応

するためには、一定の財政余力も必要であると考えております。

こうしたことを踏まえ、既存事務事業の見直しや公共施設等総合管理計画の着実な実行、市債の発行額抑制、財政調整基金の積み増しなど、引き続き将来を見据えた健全な財政運営に努めながら、高止まりが続く物価高騰の影響などに対しては、国や県と歩調をあわせ必要な対策を機動的に講じるほか、人口減少の抑制や地方創生の実現に向けた取組はもとより、少子化対策やSDGs、GXなどの「未来への投資」にも力を入れてまいります。

以上、諸般の状況をご報告申し上げましたが、今後とも、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げまして、市政の報告とさせていただきます。

別添

令和5年第3回大仙市議会定例会

市政報告（諸般の報告）

令和5年8月18日

大 仙 市

目 次

【農林部】

1	水稲の生育状況について	1
2	大豆産地化推進事業について	1
3	園芸メガ団地のトマト栽培について	1
4	クマの出没状況について	1
5	市の花「コスモス」の普及促進事業について	1

【観光文化スポーツ部】

6	友好交流都市との交流事業について	2
7	各地域の夏祭り行事について	2

【建設部】

8	物渡台地区防災集団移転について	2
9	国・県との事業調整会議について	3

【教育委員会事務局】

10	大仙市中学生サミットについて	3
11	四ツ屋公民館改築事業について	3
12	大仙市ふるさと探訪楽園ツアーについて	3
13	成人式について	4
14	Music Festival in DAISEN 大音郷 2023 について	4

【上下水道局】

15	上水道事業について	4
16	簡易水道事業について	4
17	下水道事業について	4

【経済対策】

18	物価高騰対策	5月臨時会	4
19	物価高騰対策	6月定例会	5

【農林部】

1 水稲の生育状況について

水稲の生育状況につきましては、高温の影響により平年と比べ出穂期が平年より2日早い8月1日となり、茎数がやや少ないとされていることから、引き続き収量確保に向け、県やJA等関係機関と連携しながら適切な栽培管理を呼びかけてまいります。

2 大豆産地化推進事業について

大豆産地化推進事業につきましては、さらなる産地化を推進するため、7月27日、西仙北地域において現地検討会を開催しております。当日は、大豆生産農家のほか、農研機構東北農業研究センター、クボタグループなどの関係者が参加し、自動操舵機能付きトラクタの実演や座学などを通じ、収量向上に向けた栽培技術について理解を深めております。

3 園芸メガ団地のトマト栽培について

園芸メガ団地におけるトマト栽培につきましては、6月12日から出荷が始まっております。定植後の好天により収穫量は順調に推移しておりましたが、7月に入ってから曇天や大雨、その後の高温の影響で7月中旬から減少傾向にあり、7月末時点の出荷量は、昨年同時期と比較し約18パーセント減の68トン、販売額も22%減の1,875万円となっております。今後は、適切な管理作業と確実な着果促進により出荷期の長期化を図ることで、出荷量の確保に努めると伺っております。

4 クマの出没状況について

8月17日現在、市内でクマの目撃情報が90件寄せられており、昨年の同時期と比較して27件程度増加しております。県内全域を対象にツキノワグマの出没に関する警報が発令中であり、今後もクマの活発な活動が見込まれることから、引き続き状況に応じた対応と市民の皆様への注意喚起に努めてまいります。

5 市の花「コスモス」の普及促進事業について

市の花であるコスモスの普及促進活動の一環として、8月17日から18日にかけて、大仙市緑化推進委員会が市内の小中学校、公民館、介護施設など95施設に対し、あわせて320個のコスモスプラン

ターを配布したほか、南外ふれあいパーク及び要望のあった市内の小学校5校にコスモスの種子を提供しております。

また、令和4年度に開催された中学生議会において、コスモスのさらなる活用に関する提案をいただきました中仙中学校に対しては、同委員会からコスモスの苗を提供することとしております。同校では、コスモスを原料に石鹸を試作し、利用価値の可能性を探りながら、観賞用に限定しない利活用の普及につなげていきたいとのことであり、市といたしましても、取組に協力してまいりたいと考えております。

【観光文化スポーツ部】

6 友好交流都市との交流事業について

8月4日から1泊2日の日程で、本市の子育て世帯23組71名が友好交流都市である岩手県宮古市の「本州最東端・宮古の海招待事業」に参加し、地引き網体験やナイトクルーズなどを通じ、宮古の海を堪能しております。また、8月8日から11日までの間、友好交流都市である韓国唐津市の中学生8名と引率者2名が本市を訪れ、日本文化の体験や調理実習などを通じて西仙北中学校の生徒と交流を深めたほか、大曲駅前でのフィールドワークやはなび・アムの見学、農業体験などを行っております。

7 各地域の夏まつり行事について

各地域や地区において、特色豊かな夏まつり行事が次のとおり開催されております。

8月5日	第13回太田の夏まつり（太田地域）
8月14日	角間川盆踊り（大曲地域）
8月15日	まつり彩夏せんぼく2023（仙北地域）
8月15日	第36回ふるさと西仙まつり（西仙北地域）
8月16日	第7回南外盆踊り（南外地域）
8月16日	第39回ドンパン祭り（中仙地域）

【建設部】

8 物渡台地区防災集団移転について

西仙北地域と南外地域の境界部に位置する物渡台地区の防災集団移転促進事業につきましては、6月20日に国の事業認可を受けたところであり、引き続き国と連携しながら事業を推進してまいります。

9 国・県との事業調整会議について

7月12日に秋田県仙北地域振興局建設部と、8月1日に国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所、及び成瀬ダム工事事務所との事業調整会議をそれぞれ開催し、国や県が管理する道路・河川に関する要望とあわせ、今年度の実施予定事業に係る連携・協力事項について協議を行っております。

【教育委員会事務局】

10 大仙市中学生サミットについて

大仙市中学生サミットにつきましては、8月8日、仙北ふれあい文化センターにおいて「大仙市の未来は私たちがつくる」をメインテーマに開催しております。昨年度に引き続きSDGsを共通実践のキーワードに据え、SDGsの視点で各校が実践している生徒会活動を大仙市の未来につなげていくべく、今年度のサミットテーマに「SDGsプロジェクト 私たちの思いを地域と未来に『つなげて』いくには？」を掲げ、活発な意見交換が行われております。サミットでは、「わたしたちの行動をつなげ、広げながら『ずっと住み続けたいまち大仙』の実現に向けて、各校での実践をさらにつなげ、多くの世代に広げ、未来につなげていきます」とする宣言が採択されております。

11 四ツ屋公民館改築事業について

四ツ屋公民館改築事業につきましては、8月末の完成に向け、本体工事が順調に進捗しており、地域の拠点施設として多くの皆様から利用される施設となるよう、10月の開館に向けて準備を進めてまいります。

12 大仙市ふるさと探訪楽園ツアーについて

地域資源に対する学習意欲のさらなる向上を目指す「大仙市ふるさと探訪楽園ツアー」につきましては、6月24日の歴史探訪を皮切りに、文化財や自然などを題材に4つのコースでツアーを実施しております。ふるさとの魅力を再認識するとともに、健幸まちづくりプロジェクトやふるさと博士育成事業との連携により、健康づくりや地域への理解を深める機会となっております。

13 成人式について

成人式につきましては、今年度内に21歳を迎える方々を対象に、「大仙市二十歳を祝う会」として8月15日に開催しております。同日には、新型コロナウイルスの感染拡大により開催を見送っていた令和2年度の成人式についても、「大仙市二十三歳の集い」に名称を変更して開催しております。

14 Music Festival in DAISEN 大音郷 2023 について

本市に縁のある若手アーティストを中心とした音楽文化発信型イベント「Music Festival in DAISEN 大音郷 2023」につきましては、6月18日、大曲市民会館大ホールを会場に開催しております。当日は6人のアーティストが出演し、来場した約500人の皆様にお楽しみいただいております。

【上下水道局】

15 上水道事業について

老朽化した配水管の改良工事につきましては、7月28日に大曲地域のあけぼの町、及び東川字前田表地内の発注を終えております。

16 簡易水道事業について

大曲地域の内小友中山地区において進めている水道未普及地域解消事業につきましては、7月14日に機械・電気設備の発注を終えており、現在、建築及び水道施設の発注手続きを進めております。

また、刈和野地区の配水管更新・改良事業につきましては、8月4日に配水管仕切弁設置工事の発注を終えております。

17 下水道事業について

大曲地域の佐野町・朝日町地内における管渠改築工事につきましては、7月28日に発注を終えております。

また、西仙北地域の川里地区農業集落排水施設機能強化事業につきましては、8月4日に機械設備改修工事、マンホールポンプ設備改修工事及びマンホール蓋更新工事の発注を終えております。

【経済対策】

18 物価高騰対策 5月臨時会

(1) 住民税非課税世帯への支援事業

令和5年度の住民税非課税世帯等に対し、1世帯あたり3万円を給付するもので、7月28日に対象となる9,553世帯へ支給通知書を発送しており、8月28日に1回目の支給を行うこととしております。

(2) 住民税均等割のみ課税世帯への支援事業

令和5年度の住民税均等割のみの課税世帯に対し、1世帯あたり3万円を給付するもので、7月28日に対象となる1,991世帯へ支給通知書を発送しており、8月28日に1回目の支給を行うこととしております。

(3) 子育て世帯生活支援特別給付金支給事業

児童扶養手当受給世帯、または令和4年度の住民税非課税世帯等に対し、児童1人あたり5万円を給付するもので、5月2日から申請を受け付けており、7月31日時点で児童1,395人分の給付金を支給しております。

(4) 配合飼料高騰対策支援事業

令和5年1月1日現在、市内に住所または事業所を有し、令和5年度末まで営農継続の意思があること等の要件を満たす畜産経営体に対し、令和5年1月から3月までに納品された配合飼料の数量や肉用牛・乳用牛の飼養頭数に応じて給付金を支給するもので、6月末までに申請を受け付け、13,670千円を支給しております。

(5) 就学援助費受給世帯への支援事業

物価高騰の影響により、日常生活の経済的負担が増加している就学援助受給世帯（「子育て世帯生活支援特別給付金」の受給世帯を除く。）に対し、児童生徒1人あたり3万円または5万円を給付するもので、9月の通知書発送に向け準備を進めております。

19 物価高騰対策 6月定例会

(1) ゼロカーボンシティ推進事業

一般家庭の自家消費を目的とした太陽光発電設備や蓄電池の導入、並びに電気自動車（EV）及びプラグインハイブリッド自動車（PHEV）の購入と充電設備の設置に対し助成するもので、

8月16日時点で7件の申請を受け付けております。

(2) 社会福祉施設等物価高騰対策支援事業

物価高騰に伴う社会福祉施設等の光熱費の負担軽減を図るため、施設運営費の一部を助成するもので、現在、事業者からの申請を受け付けているところであり、支給決定後、順次支給してまいります。

(3) 保育所等物価高騰対策事業

エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受ける幼児教育・保育施設に対し、光熱水費等の一部を助成するもので、8月25日に、対象となる27施設への支給を完了する予定としております。

(4) 電気料金高騰経営支援事業

一定の要件を満たす高圧契約事業者に対し、1事業者あたり50万円を上限に給付するもので、7月3日から申請受付を開始し、8月15日時点で43件の申請を受け付け、12,957千円を支給しております。